

地域課題・目指す将来像

地域
課題

- 茨城県で最も広い面積を持つ常陸太田市では、商業施設等が市南部の市街地に集積。高齢化が進む山間部から市街地へ移動する公共交通の維持が課題
- 山間部では、バス停等までの近距離移動（ラストワンマイル）への対応が課題
- 公共交通や運搬事業者の運転手の担い手不足の解消にも取り組む必要がある

将来像

- 人口減少や少子高齢化が進む中、市街地と各地域を利便性の高い交通・物流ネットワークでシームレスに結ぶ持続可能なまちづくりを目指す

推進体制



課題解決に向けた取組

自動運転車両を活用して移動性向上を図るとともに、既存の公共交通との連携による物流システムを構築
⇒自宅から拠点施設までのシームレスな移動（人やモノ）を実現

➤ 自動運転車両を活用した移動サービス

- ・ 自動運転車両による商業施設内及び周辺への移動サービスや、ラストワンマイルサービスを実施

➤ MaaS×eコマースによる物流システムの構築

- ・ 自動運転車両と既存の公共交通（路線バス、乗合タクシー等）とを組み合わせた市内の物流システムを構築

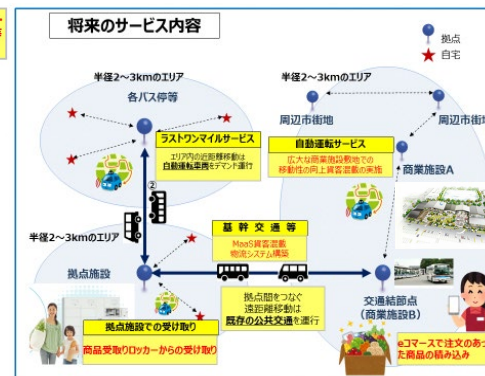
➤ 拠点施設での受け取り用ロッカー等設置

- ・ 地域の核となる施設（支所、病院など）に商品受け取りロッカーを設置し、市南部の商業施設と山間部とをシームレスにつなぎ、商品（生鮮食品、日用品、医薬品等）が購入できるサービスを提供

スマートフォンからの自動運転車両等予約・交通費支払い、商業施設の商品の注文等が可能にする



MaaS×eコマース
スマートフォン



（図：常陸太田市提供）

2022年度の
主な取組

- （自動運転）市東部地区における自動運転車両の実証実験準備
- （自動運転）市内における限られたエリア内での自動運転車両の実証実験の実施
- （MaaS×eコマースの活用）自動運転車両と既存の公共交通による貨客混載事業計画検討
- （MaaS×eコマースの活用）MaaS×eコマースシステムのデータ基盤等の整備検討

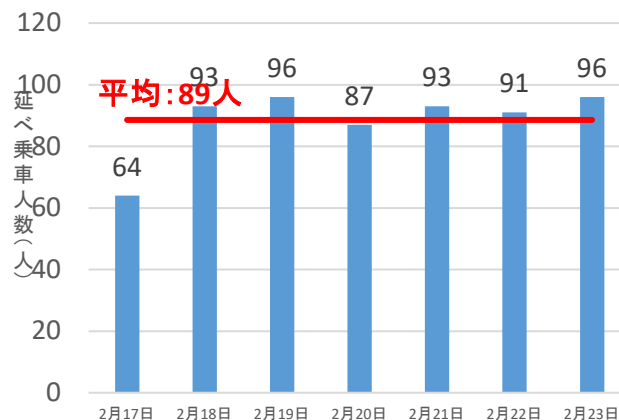
取組内容

市街地での自動運転車両実証実験 (2023年2月17日～2月23日)

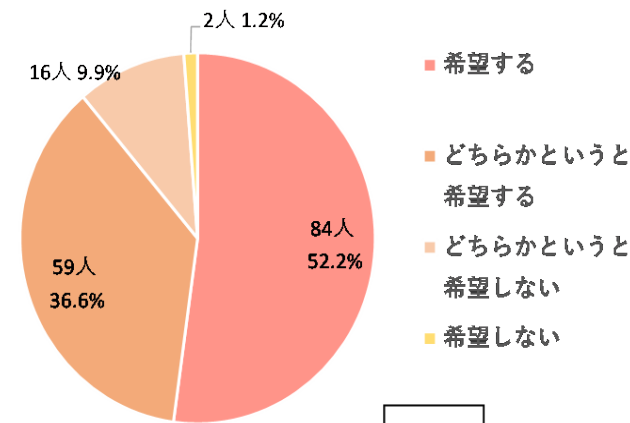
- 市民等の試乗を通じた安全性等の検証やアンケートから、自動運転 E V バス車両の実運用に向けたニーズや課題等の把握を行った
- 実証期間中の乗車人数は延べ620人、1便当たり6.5人（96便運行）の利用があり、目標値である1便当たり4名以上の利用を達成した。多くが乗車定員となる7名が乗車した状態で運行となっており、事前のPRが目標値の達成につながったと考えられる。実際に走行している様子を見て興味を持ち、乗車された方も数名確認された
- 実験参加者へのアンケート調査より、再利用を「希望する・どちらかという希望する」という回答が約9割と多く、再利用意向が高いことが確認でき、再利用意向70%以上という目標を達成した



日別の乗車人数



実験参加者アンケート



N=161